

## すべての外国人労働者に人間らしい働き方を 外国人技能実習制度学習会を開催

佐賀県内で働く外国人労働者は年々増加し 3200 人を超えています。その中に技能実習生として来た人は 1300 人以上にのぼり、なかには奴隷制度ともいふべき実態が見られます。佐賀県労連と「はたらくものの命と健康を守るネットワークさが」（ネットワークさが）は、6月12日（日）アバンセにおいて全国的に問題となっている「外国人技能実習制度」についての学習会を開催し全体で42名が参加しました。



今回の企画は、ベトナム人実習生に日本語教室を開いている越田舞子さんが、実習生から暴力やイジメなどの相談があったことから県内の実態を可視化しようと企画しました。また6月11日付の佐賀新聞一面に紹介されたこともあって一般参加者も目立ちました。

### 「国際貢献」はまやかashi 欠陥だらけの制度・・・本多さんの講演

学習会では首都圏移住労働者ユニオン書記長の本多ミヨ子氏を講師に招きました。本多さんは、技能実習制度の本来の目的が、発展途上国へ技術や技能の移転を図るという「国際貢献」は建前であるとし、1981年に研修制度が創設されてから、経済界の要望を受け対象職種や在留期間が拡大していったこと、さらに今後は対象職種に対人作業で初めてとなる「介護」が追加されるほか、在留期間も3年から5年に増えるなど制度がますます改悪されていると述べられました。

また相談の事例として、徳島県労連に駆け込んだ中国人実習生の実態を紹介。日本に着くなり空港から職場へ直行し20時まで仕事、それから毎日朝8時から平均22時30分、遅いとき深夜0時まで働き、休みは月に1回～3回。毎日記録していた日記が過酷さを生々しく物語っていました。

技能実習生が送り出し機関に日本語教育費等の名目で多額の借金を負っていること、日本では「技術を学ぶ」ことを建前としているために雇用主の変更が許されないことなどを取り上げ、がまんして働くしかなく、国連からも「現代の奴隷制度」と批判を受けていると述べ、技能実習制度の廃止と、まともな働き方を保障する政策の必要を訴えました。

### 県内でも深刻な実態が・・・越田さんの報告

学習会では、技能実習生の相談にボランティアで取り組んでいる越田舞子氏から佐賀県での実態や相談事例が報告されました。・ベトナムでは100～150万の借金を抱えています。・どんなに朝早くても弁当を作り、時には川で魚を取って食費を補っている。・建設業のベトナム人が首を絞められ頭を踏みつけられるなど暴力を受けた。ケガをしても労災扱いがされないなど。



質疑応答では時間を超過するほど多くの質問や意見がのべられ、参加者も問題の深刻さを認識できました。また佐賀新聞にも大きく取り上げられたため集会后も反響が大きく、「実態の可視化」という当初の目的を一定達成できた集会となりました。